

会長就任のご挨拶

日本微生物資源学会会長
江崎孝行



今年度総会で歴史ある日本微生物資源学会の会長を拝命いたしました。ここに会員の皆様にご挨拶申し上げます。JSCCには我が国の微生物研究に携わる先輩諸氏が1世紀以上にわたって収集してきた菌株を保存し、分譲する重要な社会基盤を維持する任を背負った多くの会員がいます。さらにその微生物を、研究、教育、工業、および食品など多様な生物利用を目指している方々が集まり学会運営が行われています。また海底や砂漠など極限環境に挑み、新たな特性をもった微生物を探索しておられる微生物ハンターも参加され、多様な目標をもった方々の集団だと思っております。

JSCCはこのような多様な会員の今後の活動を支援し、我が国の社会基盤を支えていく活動を続けなければなりません。そのためにはJSCCは常に会員と社会が求める新しい情報を発信し続ける場として認識されるようにならなければなりません。

半世紀近く、系統分類の世界に身を置き、微生物の系統分類法の流れを拝見していると、21世紀になって微生物学が大きく変わろうとしているのを日々感じております。

一つひとつの新規微生物を単離する努力は今も変わらぬ地味な努力が必要です。しかし、それに対して圧倒的な情報量で環境微生物の菌叢を解析するゲノム解析技術は、微生物学研究の可能性を大きく拡大しています。この情報を系統分類や微生物利用に有効に活用すれば、再び微生物学の黄金時代が到来し、新たな視点が開花すると期待しています。今は微生物学を研究し、利用する人にとって興奮の時代です。目の前の玉手箱から何が飛び出してくるか、飛び出してきた“サプライズ”をどのように利用し、研究に活用するか“ワクワク”する気持ちを抑え切れません。

1つの機能に着目して見つけた菌株が菌種として多様性があり、菌種が数10%も株特有の遺伝子を保有することも見えてきました。これもゲノム解析の重要な成果です。株のもつ多様性の認識はカルチャーコレクションの重要性を再認識させてくれます。研究の独創性も、新たに見つけた株のゲノム情報の多様性に依存して急速に拡大します。

個々の会員の皆様から発信されるこれらの新規情報を総会で高密度に拝聴し、雑誌を開くことに夢を膨らませ論文を読み込む場を提供したいと願っています。

今後のJSCCの活動に忌憚のないご意見をいただき、発展したいと思っておりますのでご協力をお願いいたします。